

日本メダカハンドブック作成事業報告書

(社)高知県生態系保護協会

代表 中村 滝男

高知県

1. はじめに

メダカは唱歌にも登場するなど、昔から身近な生き物と考えられてきましたが、平成11年2月に環境庁が発表した改訂レッドリストにおいてメダカが「絶滅危惧種」に指定され、全国的なメダカの減少が裏付けられた形になりました。

わたしたちは、平成6年から高知県で「めだかトラスト」という活動をはじめ、鹿児島県、広島県、香川県、鳥取県、大阪府、京都府、群馬県などの市民団体と連携をとりながら、メダカと共生できる環境の復元と、メダカを通じた環境教育に取り組んできました。

環境庁によってメダカがレッドリストに加えられたことによる国民の衝撃は大きく、わたしたちは、全国各地で活動している関係者に「日本めだかトラスト協会」の設立を呼びかけて、メダカの生息調査や学習会の開催などの活動を行ってきました。

今回、タカラハーモニストファンドの助成金をいただいて作成した「日本めだかトラストハンドブック（指導者用）」は、当初はメダカに関する知識を集成した「日本メダカハンドブック」として編集する予定でしたが、すでにメダカに関する普及書は各種市販されており、むしろ、現在全国各地で悪戦苦闘しながら、メダカの生息できる環境づくりや、メダカを通じた環境教育に携わっている人たちが、全国の同じ様な活動に携わっている仲間の活動を知ることによって励まされ、今後も活動を発展させていく上で役立つ資料として作成することになり、あわせて日本めだかトラスト協会という全国組織の仲間づくりにも役立つように

考えて作成したものです。

わたしたち社団法人高知県生態系保護協会は、日本めだかトラスト協会設立準備会の事務局をお引き受けしており、ハンドブックの作成にあたっては、岩松鷹司愛知教育大学教授をはじめ、設立準備会の会員の方々から寄せられた調査結果や資料をとりまとめて掲載させていただきました。

また、「メダカとこども・小さな命の育む身近な水辺を保全しよう」をテーマに平成11年8月に高知市で「第一回全国めだかシンポジウム」を開催しましたが、小杉隆元文部大臣や、環境庁、農林水産省をはじめ、橋本大二郎高知県知事、松尾徹人高知市長、中野益隆日高村村長など高知県の行政関係者の方々にもご支援・御協力をいただきました。

平成12年12月には、大阪市で「第二回全国めだかシンポジウム」が開催されることが決まっています。

今回作成した「日本めだかトラストハンドブック」が、日本各地のメダカの生息環境の保全や、メダカを通じた環境教育の活動に、少しでも役立てていただくように願っています。

2. 活動の概要

平成11年度は、全国的に「親子メダカ調査」を呼びかけたり、福井県、東京都、神奈川県、長野県、大阪府、高知県、沖縄県等で学習会やメダカ関係者の交流会を行い、メダカとその生息環境の保全や、メダカを通じた環境教育の進め方について意見交換などを行いました。また、活動を通じてさまざまな手紙や資料も寄せられましたが、その主なものは下記の通りです。

こうした活動の成果は、日本めだかトラストハンドブックに収録しました。

(1)「日本めだかトラスト協会」設立準備会が発足

絶滅が心配されるメダカの保護や身近な水辺を守るために、全国各地の環境保護団体が協力していきこうと、「日本めだかトラスト協会」の設立を呼びかけたところ、全国46都道府県より約300名の方々が発起人となりました。これら発起人の方々を中心に全国18都府県から約150人が高知県に集まり、平成11年（1999年）8月8日に「第一回全国めだかシンポジウム」が開催されました。

シンポジウムでは、愛知教育大学教授で「メダカ学」の著者である岩松鷹司先生の基調講演の後、各地からの報告として、渡部かほり氏より神奈川県藤沢市で、絶滅したと思われていた「藤沢メダカ」を発見し、市内の小中学校にメダカを配る活動を続けている「藤沢メダカの学校をつくる会」の活動や、杉下正明氏より京都府大江町で、休耕田に池と休憩所からなる「メダカの学校」を造って700匹のメダカを放した「大江鬼の里『メダカの学校』」の活動の報告がなされました。最後に全体討論を行い「みんなで作ろう、めだかの広場、めだかの学校」「みんなで守ろう、地域のめだかと水辺」「手をつなごう、めだかの仲間たち」の3つの宣言を採択。地域のメダカを守りながら情報交換していくことを確認し「日本めだかトラスト協会設立準備会」が設立し以下の事柄が決まりました。

①名称は「日本めだかトラスト設立準備会」に決定

平成11年8月8日をもって「日本メダカトラスト協会設立準備会」を設立する。

（種としての「メダカ」はカナ表記ですが、幼児期の環境教育や、水田生態系のシンボルとしての意味も含めて協会の名称はかな表記の「めだか」を採用）

②2000年「日本めだかトラスト協会」を設立

2000年秋に大阪にてシンポジウムを開催し「日

本めだかトラスト協会」を設立する。

③役員は小杉隆元文部大臣、岩松鷹司先生ら「日本めだかトラスト協会設立準備会」の役員として、小杉隆元文部大臣、岩松鷹司愛知教育大学教授ほか関係自治体首長を推薦し、「日本めだかトラスト協会」正式発足後も継続して役員をお願いする。

④事務局は(社)高知県生態系保護協会「日本めだかトラスト設立準備会」の事務局を(社)高知県生態系保護協会が担当する。

⑤会費は2000円

「日本めだかトラスト協会」正式発足までの、設立準備のための通信費、会議費などに充てるために、一口2000円の会費をお願いする。正式発足時に残金を「日本めだかトラスト協会」に寄附する。

⑥設立発起人名簿の扱いは慎重に

プライバシー保護のために、組織活動の必要時以外には公開しない。

(2)第1回全国親子めだか調査を実施

平成11年6月～10月に全国の日本めだかトラスト協会設立発起人等呼びかけて親子めだか調査を実施したところ、1都2府28県から158件の回答がありました。

調査結果を見ると、メダカの生息地を確認した情報のうち、約3割からメダカの生息環境が悪いという報告があり、全国で現在もメダカの生息環境の悪化が進んでいることが推測されます。

また、埼玉県以南の各地でメダカの仲間である外来種のカダヤシ（タツミミノ）の生息情報があり、この報告以外の情報もあわせるとカダヤシの分布の広がりが予想されます。

今回の調査は学術的な調査というよりも、親子で身近な生き物であるメダカを探し、その生息環境に関心をもっていただくという趣旨で行ったので、全国的なメダカの調査としては不十分な面がありますが、親子の調査を通じてメダカの生息状況の把握に一定の役割を果たしたことは評価でき

ます。

ちなみに、報告があった地域は下記の通りです。

宮城県 4、福島県 8、茨城県10、群馬県 2、埼玉県 2、千葉県 2、東京都 3、新潟県 3、福井県 1、長野県16、岐阜県13、静岡県 1、愛知県 8、三重県 4、滋賀県 2、京都府19、大阪府 1、兵庫県 3、奈良県 1、和歌山県 4、岡山県 1、広島県 17、香川県 8、愛媛県 4、高知県 9、福岡県 3、長崎県 1、熊本県 2、宮崎県 1、鹿児島県 1、沖縄県 1、回答数計158件

(3)メダカ調査・活動の事例

全国各地から、下記のようなメダカ調査やメダカの生息環境の保全、メダカを通じた環境教育に取り組んでいる事例が寄せられました。

山形県 山形県メダカ情報センター

山形県メダカ生息地マップを作成し、メダカの生息情報を収集。

栃木県 メダカ里親の会

休耕田を利用して、野生のメダカが生きてゆける環境を再現。

東京都 メダカの学校

全国のメダカ情報の収集と発信。

神奈川県 藤沢メダカの学校をつくる会

小中養護学校に藤沢在来のメダカを配布し、教材化・飼育法の学習活動など。

京都府 大江鬼の里「メダカの学校」

面積 9 アールのメダカの学校池を建設し、あずまや造りの休憩所も設置。

大阪府 (社)大阪自然環境保全協会

大阪府を23地区に分割し、メダカやドジョウの生息調査を実施し、分布図を作成。

徳島県 徳島県立博物館

県内の詳細なメダカ生息調査を実施。

高知県 (社)高知県生態系保護協会

めだかトラストを実施し、日本めだかトラスト協会設立準備事務局を担当。

山口県 県立厚狭高等学校生物部

県内のメダカの分布状況について調査している。

福岡県 メダカと自然を守る会

地域のメダカの保全活動を行い、メダカ飼育マニュアルも作成。

3.「日本めだかトラストハンドブック」(指導者用)の発行

以上のような活動の記録と、今後めだかトラストを進める上で必要な情報をとりまとめて下記の内容を掲載した「日本めだかトラストハンドブック」(指導者用)を3000部作成しました。

このハンドブックは、今後、全国のメダカ関係者に配布する予定です。

- (1)はじめに
- (2)メダカとはどんな魚
- (3)メダカ調査・活動の事例
- (4)親子メダカ調査結果
- (5)めだかトラスト活動事例
- (6)第一回全国めだかシンポジウム報告
- (7)全国のメダカ関係団体一覧
- (8)メダカに関する書籍一覧
- (9)全国各地からの手紙

メダカと子ども・小さな命の育む身近な水辺を保全しよう！

全国めだかシンポジウム (仮称) 日本めだかトラスト協会設立準備会

開催日：平成11年8月8日(日)
主 催：社団法人高知県生態系保護協会
会 場：女性センターソーレ
後 援：環境庁、農林水産省・高知県・高知市・日高村

全国めだかシンポジウム (仮称) 日本めだかトラスト協会設立準備会 平成11年8月8日(日)

プログラム

8:50-9:20 受付

9:20-9:40 開会式
主催者あいさつ 中村 純男 (社団法人高知県生態系保護協会会長)
賛助 紹介 (社団法人高知県生態系保護協会名誉会長)
代読 廣松 ひとし (高知メダカトラストパーク実行委員会会長)

来賓あいさつ 橋本 大二郎 (高知県知事)
代読 坂本 彰 (高知県環境保全課課長)
山本 幸四郎 (高知市助役)
中野 益隆 (日高村村長)

9:40-10:20 記念講演会
岩松 薫司 (愛知教育大学教授・「メダカ学」著者)

10:20-10:50 各地域の活動報告
徳部 かほり (藤沢メダカの学校をつくる会 会長)
杉下 正明 (大江鬼の里「メダカの学校」)
森田 利彦 (社団法人大阪自然環境保全協会)

(休憩)

11:00-12:00 「日本めだかトラスト協会・設立準備会」
議事 ・経過報告
・環境庁よりメダカに関する報告
・今後の予定

13:00-16:00 設立発起人有志による交流会

「全国めだかシンポジウム」
主催：社団法人高知県生態系保護協会
会場：女性センターソーレ
後援：環境庁、農林水産省・高知県・高知市・日高村

全国めだかシンポジウム出席者名簿 (敬称略)

宮城	遠東 健太郎	熊鷹ぬまっこくらぶ
埼玉	前田 穂	東京理科大学講師、巣鴨高等学校講師
東京	佐藤 勝利	
東京	中川 大一	東京都北区議会 (日本共産党北区議員)
神奈川	渡部 暁・かほり	藤沢メダカの学校をつくる会
	谷田 光弘	八王子市中央公民館
	沖津 由季	渚勾川水系魚類調査会
静岡	村上 敏	日本ビオトープ協会
愛知	大山 邦雄	環境かんセキ
	岩松 薫司	愛知教育大学教授
三重	嶋田 協	元三重大学教授 (応用微生物学) / 環境かんセキ 非常勤講師
	長尾 計昌	伊賀台汚水処理施設管理組合、環境カウンセラー
京都	山下 民雄	ミニ独立国六左エ門村殿部花しょうぶ園
大阪	杉下 正明	大江鬼の里「メダカの学校」
	鎌上 泰義	環境かんセキ
	竹本 外茂次	茨木市環境部環境保全課
	小竹 武	淀川ネイチャークラブ会長、小竹医院
兵庫	竹内 清哉	
	山田 美智子	芦屋川に魚を増やそう会
	久船英次・田原智子	行動する環境グループ「葦の風」
	柴田 利彦	(社) 大阪自然環境保全協会
四ノ宮	泰雄	読売新聞大阪本社論説委員
鳥取	山本 忠人	(株) チュウブ
	本田 斉	財団法人鳥取県観光事業団 東郷湖羽合臨海公園
岡山	斎藤 仁	自然環境保護団体Nature World本部
	宮島 吉雄	中国四国農政局
	尾崎 勝弘	中国四国農政局企画調整室
	竹内 哲郎	「めだかの学校」 (岡山県建部町施設)
	畠本 和志	(仮称) 備前ホタルと自然を守る会 (準備中)
香川	松岡 広次	とまわ幼稚園バス運転手
愛媛	木村 康博	デザイン業
	白石 隆彦	元愛媛県職員
	野本 公夫	日本自然環境普及会

全国めだかシンポジウム出席者名簿 (敬称略)

藤田 正子	飲食業
貞崎一男・十亀昭子	(株) 邦友産業
堤 孝雄	愛媛県新居浜市役所 清掃センター
大西 仁一郎	児童文学者
佐々木 和乙	西条市役所生活環境課
三好 豊 他7名	メダカ会
川口 壽雄	協賛者
井上初美・ハル・忠助	
津村 英志	虹の森公園おさかな館
橋本 宣彦	
青木 邦雄	新居浜アメニティークラブ
高知 大西 啓彦	医療法人 未有会 大西内科
衣笠 雄一	中学校教員
西岡 豊直	
西川 富恵	一宮消費生活グループ
廣松 ひとし	高知めだかトラストパーク実行委員会
森下 良一	
氏原 清	
佐々木 英史子	
渡邊 紀・山中 伸一	越前町教育委員会
高尾 和伸	横浪小学校
島山 茂治	日高村グラウンドワーク推進協議会会長
矢野 忠茂	
片岡 三和	加茂公民館長
戸嶋 義典	日高村部落長会長
戸嶋 雅尚	日高村商工会会長
桑原 正一	加尾製紙地周辺整備協会会長
吉岡 幸浩	日高の川を美しくする会会長
松岡 君子	日高村女性の会会長
竹田 芳彦	村議会議員
中野 益隆	日高村長
藤田 浩	日高村総務課企画財政係長
前田 修平	日高村総務課企画財政係

全国めだかシンポジウム出席者名簿 (敬称略)

米倉 登志子	めだかエコファミリー
窪内 良介	めだかエコファミリー
窪内 和典	めだかエコファミリー
下須 純子	めだかエコファミリー
澤 豊	
植原 耕三	
岡本 まと	
山崎耕作・山崎淑子	
山崎 浩司	
中村小夜子	
高木 佐世子	
福岡 育樹 辰海	福岡市議会議員・農薬
坂田 和歌子	北九州市建設局下水道河川部 水環境課
今村 高良	
中川 努	北九州市役所建設局八幡東建設事務所工務課下水道係
宮崎 森 芳久	熊本メダカの学校
沖繩 西江 重信	グループエコソイフ

岩松 鷹司

1938年高知県生まれ。東京農業大学卒業後、名古屋大学大学院理学研究科博士満了(理学博士)ののち、愛知教育大学助手を経て、現在同大学教授(専門は発生生理学)。また、この間に文部省教科図書検定調査審議会調査員、大学入試センター教科専門委員会会長、文部省学術審議会専門委員などをつとめている。
著書に「メダカ学」(サイエンティスト社)、「メダカ・動物発生段階図譜」(共著、共立出版)「メダカ学全書」(大学教育出版)ほか多数。
日本動物学会、日本発生生物学会、日本繁殖生物学会の会員。

藤沢メダカ復活作戦

藤沢メダカの学校をつくる会 会長 渡部かほり

1. 藤沢メダカとは

メダカ(Oryzias latipes)は、経済価値の低い生物なので、水系ごとに住み分けて移動することがないため、DNAレベルで若干の差異が見られます。
このことに注目した渡辺克己氏(神奈川県教育センター室長＝当時)は、県内各水系のメダカを採集し、数種類を系統別に保存してこられました。
藤沢市の東部を流れ、江の島付近で相模湾に注ぐ境川水系では、メダカの姿が見られなくなって久しくなります。
1995年にまとめられた「神奈川県レッドデータ生物調査」でメダカが絶滅危惧種Fに指定されたことを契機に、藤沢市在住の神奈川県水産総合研究所の内水面試験場長(＝当時)城条義興氏は、同年9月から10月にかけて積極的に市内を調査しました。
その結果、鶴沼東部の蓮池に生息していたメダカを、近隣の池田正博氏が40年間も底池で純粋に飼育してこられたことを突き止めた。
城条氏の説明に感動された池田氏は、このメダカを教材用に提供することを快諾され、数百尾が藤沢市教育文化センターに繁殖用に移されました。同センターの菊池久登研究主事はしりびれの軟条数などから、これを境川水系特有のメダカということを確認し、「藤沢メダカ」と呼ばれるようになったわけです。
後に東大理学部でDNA鑑定を依頼し、確認されています。

2. 藤沢メダカの学校をつくる会の発足と活動

さて、教育現場でこのメダカを活用するために、市内各小中学校の教員からなる組織づくりが進められ、市教育委員会・みどり課などの協力を得て、「藤沢メダカの学校をつくる会」という任意団体が1996年8月に発足しました。
会は、「見せる・育てる・ふやす」をテーマに、各小中養護学校(後に私立や高校にも)に藤沢メダカを配布するとともに、まず、教員の学習会や情報交換の場を設け、内水面試験場・県教育センター・市教育文化センターからのアドバイザーによる指導を適宜受けながら、教材化・飼育法などの学習活動を進めています。
各学校では、水槽で飼育して観察・実験するだけでなく、校庭に池を作ったり、ビオトープづくりに取り組むところも増えてきました。
会の活動は、市教育委員会の刊行物や理科展・環境フェアでのパネル展示などで報告しています。1997年にはホームページを開設し、内外に活動報告を行うとともに、同様な活動をする他団体・個人との連携も図られています。

URL: <http://www2s.biglobe.ne.jp/~kurobe5/fms.htm>

また、日本環境教育学会に団体加盟し、すでに2回発表の機会を与えられました。さらに、日本水産増殖学会でも活動報告をしています。
会の活動は、早くからマスコミ・ミニコミなど各種報道機関の関心を呼び、新聞やテレビで紹介され、ことに地元の藤沢ケーブルテレビは、「藤沢メダカ物語」と題する45分の特集番組を制作しました。

1999年度の活動としては、第1回メダカサミットの開催が挙げられます。これは、江の島水族館との共催で、県内のメダカ保護活動を行う団体・個人の活動報告の場となりました。

また、鶴沼公民館の活動「鶴つ子・めだかの学校」に全面協力、8回にわたるプログラムが進められています。

3. P T Aの組織化

会の活動が活発化し、児童生徒やマスコミを通して知れわたるとともに、市民の中にも藤沢メダカに対する関心が高まってきました。なかには、「自分でも是非飼育したい」という声もあがるようになり、市民に配布するには、大量の増殖が必要となります。そのノウハウを持っている機関が市内には存在しました。江の島水族館です。館では、増殖の依頼を快諾されたばかりでなく、堀田起子館長が市民組織の代表をお引き受け下さることにしました。組織の名は「藤沢メダカの学校 P T A」と決まりました。地元の協力態勢も整い、すでに500名を越す市民に配布されました。配布に際しては、水族館で詳しい説明会があり、飼育方法とともにみだりに自然界に放流しないこと、飼育結果を報告することなどが指示されます。

4. 江の島水族館の活動

江の島水族館は、繁殖活動・飼育法指導・配布活動などで会と協力関係にあるばかりでなく、藤沢メダカとは深いつながりがありました。1997年、文部省委嘱事業の「科学系博物館ネットワーク構想」の南関東エリアのコアミュージアムに指定され、地域と連携した博物館を構想する推進役を担ったからです。館は藤沢メダカとの関わりをその構想の中心に据えました。
その活動の第一は、「藤沢メダカ学校」というCD-ROMの制作への取組みでした。これは、メダカに関する知識普及と藤沢メダカの紹介が主な内容です。館内に藤沢メダカの常設展示を行うばかりでなく、「ワケクセセミナー」での講演、国際シンポジウム、「湘南・相模湾の水族館/21世紀に向けて」(1997)や堀田館長の著書「岩波新書「水族館のはなし」(1998)でも藤沢メダカの紹介を行い、1998年の館発行のカレンダーのテーマを「藤沢メダカの住む街に」にするなどの取組みもあります。

5. 日本大学生物資源科学部の活動

市内にキャンパスをもつ日本大学生物資源科学部では、メダカサミットへの会場提供を機に、藤沢メダカへの関心が高まりました。吉原真好助教授は、会のアドバイザーを引き受けて下さり、構内にメダカ池を建設するなどの取組みが進められています。

大江鬼の里「メダカの学校」

・所在地：京都府加佐郡大江町弘性寺
 ・校長：大西 均
 ・事務局：京都府加佐郡大江町字二箇1830
 TEL 0773-57-0702 FAX 0773-57-0424
 担当 杉下正明 (090-476-05647)

・メダカの学校総面積 9アール
 ＊メダカの池→敷地面積 5アール
 2m×12m長池 1池
 直径2.5m丸池 2池
 ＊休憩所→敷地面積 4アール
 本造平屋建 (24平方メートル) トタンぶき あずまや造り

「メダカの学校」これまでの歩み

平成9年10月初旬 メダカの学校造りを完了。会員16名。
 11月 岡山県建設部「メダカの学校」視察。
 12月 メダカの学校建設予定地決定。
 大江山青少年センター グリーンロッジ前。
 平成10年1月 関係地主に地代ほか交渉。
 2月 メダカの学校の建設開始。(雪、雨との戦い)
 4月上旬 メダカの池完成。
 4月29日 メダカの学校の開校式。校長大西均就任。
 参加者は町長ほか80名。子供たちによるメダカ700匹放流。
 5月 メダカの学校休憩所の建設に向けての検討会。
 6月 メダカの学校休憩所建設関連建物視察。
 7月 メダカの学校七夕まつり。参加者は小学生30名、大人15名。
 10月 休憩所建設(建物のみ) 譲渡工務店の決定。
 平成11年2月 休憩所建設地の除雪作業。積雪45cm有り。
 2月末 休憩所の除雪及び基礎づくり。
 3月 休憩所の建前。
 5月4日 メダカの学校休憩所の完成式。
 高知県生態系保護協会中村会長御一家を招き、参加者は町長以下70名。もちつき、焼きそばほか、にぎやかなうちに終わる。
 6月26～27日 高知県生態系保護協会視察。めだかトラスト見学。参加者18名。

大阪自然環境保全協会の取り組み

柴田 利彦

昨年来、大阪府緑の環境整備室と協議を重ねた結果、メダカそのものの保護も大切だが、メダカの生息条件に目を向け、生息環境を良くすることがより大切だとの見解のもと、大阪自然環境保全協会、大阪シニア自然大学の保護運動に、緑の環境整備室・水産課・府立淡水魚試験場が積極的に協力することで意見の一致を見ました。
 以降下記のとおり、活動を具体化してきました。

4月 メダカ調査委員会設置
 4月22日 メダカの学習会実施(大阪府立淡水魚試験場)
 5月16日 メダカ実地調査研修会実施(八尾市)
 6月26日 毎日放送「おはよう川村竜一」に長井事務長が出演し、メダカ情報の提供を呼びかけ
 6月26日 毎日新聞朝刊に「メダカ情報 お寄せ下さい」の記事掲載
 7月 大阪市内各役所・市民センター等に、情報提供を求めるチラシ配布
 7月14日 大阪府緑の環境整備室長による「メダカ生息情報の提供呼びかけチラシについて(依頼)」を、府下各市町村自然環境担当課長および府関係機関で流通(チラシ添付)
 7月19日 メダカ調査委員会幹事会開催
 7月21日 産経新聞夕刊に「メダカを絶滅から守れ」の記事掲載
 8月1日 調査キックオフ(提供情報約200件)
 大阪府を23地区に分割し、地区幹事を中心に、大阪シニア自然大学メンバーおよび調査員の希望をよせられた市民で、チームを組み、調査を行う。
 8月8日 滋賀県大津市の大久川で「メダカまつり 夏休み親子で一緒にさかなとあそぼう」開催(市民対象)
 8月21日～22日 メダカとカダヤシの見分け方講習会開催(市民対象)
 8月末 調査終了
 9月 分布図(概要)作成
 10月 分布図(環境庁基準メッシュ)完成

この後、集められた情報を、専門家、大阪府関係者を交え分析し、メダカを中心しつつも、メダカ以上に見られなくなったドジョウ、フナ、貝類、水草、水棲昆虫等々を含む生態系の保護・創出の実施案を、今秋には作成し、できれば専門家を招いてのシンポジウムを開催したいと思います。

これまで私達は、自然関係活動の3本柱のうち普及啓発活動が中心でしたが、これを機に、この活動を、私達の活動の柱にしていきたいと思っており、来年には、市民参加を求めるとともに、自治体の環境関係課と協力・共同し、自然の保護と創出の活動に着手します。

柴田 利彦
 1999年4月 大阪シニア自然大学入学(6期)
 1999年4月 メダカ調査委員会参加
 1999年4月 メダカまつり実行委員会参加

社団法人高知県生態系保護協会

〒780-0843 高知市廿代町17-7 八千代ビル3F
 TEL088-871-7788・FAX088-871-7744
 Eメール:BYI16445@nifty.ne.jp

◎日本めだかトラスト協会・北陸ブロック学習交流会報告

10月16～17日と、福井県敦賀市で開催された日本めだかトラスト協会北陸ブロック交流会に行っていました。

午前中は中池見湿地で「メダカの参観日」を行い、午後からは敦賀市福祉交流センターで学習交流会が行われ、あわせて約70人の方々が、石川県、滋賀県、大阪府、岐阜県、愛知県、三重県、福岡県などから参加されました。

地元の「緑と水の会」の笹木さんをはじめ、熱心な協力者の方々のおかげで、短い時間でしたが、メダカの里である中池見湿地で野外観察を行い、午後には中村滝男会長による講演と質疑など、日本めだかトラスト協会設立に向けて意見交換を行うことができました。

日本めだかトラスト協会の事務局としては、来年の設立に向けて、今後でもできるだけ各地の活動を視察し、また各地で活動されている方々とお互いに交流を深めたいと考えています。

もしも、高知県内や四国内でも、学習会、講演会などの準備を引き受けて下さる方がおられましたら、できるだけお問い合わせしますので、早めに事務局までご連絡をお願いいたします。

10月26日～27日には、長野県駒ヶ根市の赤穂小学校や、長野市周辺で活動しているメンバーと交流をする予定です。

『めだかトラスト協会』設立
40県 教育で観察学習会

メダカが好きな場所の探
索活動や「めだかト
ラスト協会」設立に向け
た調査と学習活動が主
で、県内外から40名
の参加者が参加し、
午前中は中池見湿地
で野外観察を行い、
午後には中村滝男
会長の講演と質疑
など、日本めだか
トラスト協会設立
に向けて意見交換
を行うことができました。

日本めだかトラスト協会の事務局としては、来年の設立に向けて、今後でもできるだけ各地の活動を視察し、また各地で活動されている方々とお互いに交流を深めたいと考えています。

もしも、高知県内や四国内でも、学習会、講演会などの準備を引き受けて下さる方がおられましたら、できるだけお問い合わせしますので、早めに事務局までご連絡をお願いいたします。

10月26日～27日には、長野県駒ヶ根市の赤穂小学校や、長野市周辺で活動しているメンバーと交流をする予定です。



中池見湿地で行われたメダカ観察会＝敦賀市提供

(1999.10.18 中日新聞提供)

◎全国親子めだか調査報告

今年の5月から始まった第1回全国親子めだか調査。この調査に25都府県207名の方々の参加があり、127通もの調査票（10月8日現在）が協会へ寄せられました。御協力ありがとうございました。

全国親子めだか調査とは、メダカのいそうな場所にいぎ、網ですくってメダカであるかどうかを確かめ、調査日時、場所や川・池の名前、周囲の様子等を記入用紙に書き込んでいきます。また、メダカにとってその環境は？（メダカに良い◎、ふつう○、あまりよくない△、すごく悪い×）、その場所の③不明は？（①放流された場所と思われる、②もともからいた場所と思われる、③不明）、その場所の将来は？、という3つの質問もあります。

127通の調査票の内、参加者が調査を行った時期は、6月が56件（44%）次いで7月が43件（34%）以下5月が10件（8%）、8月が9件（7%）、その他9件（7%）となっています。

メダカの繁殖活動は4月から9月の間に最も活発になります。9月を過ぎ、繁殖期が終わると、岩や草の影に隠れてひっそり生活し、次の繁殖期に備えます。活動が活発になる時期がメダカの観察にむいているのではないのでしょうか。

調査報告があった地域は、北は宮城県から南は沖縄まで、30都府県という広範囲に及びます。現在住んでいる場所から、かなり遠出をして調査を行ってくださった方もいました。以下にその表を示します。

都道府県別の調査報告状況

(平成11年10月現在)

都道府県	報告件数	都道府県	報告件数	都道府県	報告件数
宮城県	4	静岡県	1	広島県	8
福島県	7	愛知県	6	香川県	1
茨城県	10	三重県	4	愛媛県	4
埼玉県	2	滋賀県	2	高知県	9
千葉県	2	京都府	16	福岡県	2
東京都	3	奈良県	1	長崎県	1
新潟県	3	大阪府	1	熊本県	1
福井県	1	兵庫県	1	宮崎県	1
長野県	9	和歌山県	4	鹿児島県	1
岐阜県	7	岡山県	1	沖縄県	1

豊かな自然環境 メダカと共に生きる

メダカにとって大切な小川や田んぼ、池を守ろう。

メダカの四季
メダカは、春・夏・秋・冬と、季節によって、水質や水温、餌の量や種類、活動の仕方が変わります。メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。



▲メダカが生息する水田の中の用水路 (現在ではこのような用水路はほとんど消えてしまった) 高知県伊予市

メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。

メダカが絶滅危惧種になった理由
メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。

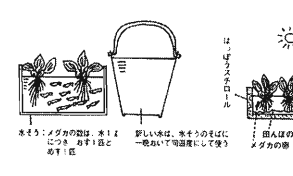


▲メダカ(オス)

メダカが絶滅危惧種になった理由
メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。

メダカの飼育
メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。

メダカの増やし方
メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。



▲メダカの飼育
メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。

メダカの増やし方
メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。

四国 ネットワー クニュース

99夏号

1999年(平成11年)
6月1日発行(年14号)
編集
四国生きものネットワーク
発行所
高知県生態系保護協会
〒780-0813 高知市伊予町17-7
TEL (088) 871-7788
FAX (088) 871-7744

今号のトピックス
・メダカが絶滅危惧種になった理由
・メダカの飼育
・メダカの増やし方
・メダカの生態

メダカの生態
メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。

メダカの増やし方
メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。

メダカの飼育
メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。メダカは、春は産卵期、夏は成長期、秋は成熟期、冬は越冬期と、季節によって、活動の仕方が変わります。

高知県のめだかトラスト 活動の現状と課題

日本メダカハンドブック作成事業報告書

日本めだかトラス協 設立準備活動報告

10月17日 福井県敦賀市で開かれた日本めだかトラス協会北陸ブロック交流会が行われました。日本めだかトラス協会設立準備会からは、社団法人高知県生体系保護協会の中村通男会長と大阪自然環境保全協会の長井美知理事らなど、約30人の各地の設立発起人が参加し、メダカの里である池見湿地で野外観察を行い、午後は講演と質疑応答意見交換を行うことができました。

10月26日 準備会より中村通男会長が長野県めだかトラス設立発起人の市川寛先生に依頼により、駒ヶ根市立赤穂小学校を訪ねて学校ビデオテープを視察しました。また、10月26日午後27日には、同じく発起人の東城幸治さんの依頼により、「メダカ水の会」



「メダカの学校参観日」の行事(10月17日敦賀市)

事務所を訪ね、小林紀雄さんや古川茂紀さん等の案内で、須賀市および長野県の水田地や上場地域のメダカの生息地、長野県立神内小学校の「メダカ観察学習池」や、温泉排水路のカタヤシ等を視察調査しました。

11月27日 大阪市立環境学習センターにおいて、大阪市長室による「がんばれメダカシンポジウム」が開催されました。パネラーとして、メダカの博士として著名な愛知教育大学岩松隆司先生や、農林水産省農業工学研究所瀧澤二所長、大阪府淡水試験場矢田敏見所長、社団法人高知県生体系保護協会中村通男会長が出席しました。

中村通男会長からは、日本めだかトラス協会設立に向けて、全国的なメダカの生息



分布調査とともに、①種の保全対策、②水田環境の保全、③保護区の設定、④環境教育、⑤園・学校・地域・自治体・企業との取り組み、⑥国際的取り組み、⑦ラムサール条約指標種へのリストアップに向けての取り組みが報告されました。

8日、シンポジウムの記念講演を愛知教育大学の岩松隆司教授が行いました。岩松教授は高知市出身ですがメダカの権威として知られ著書に「メダカ学」「ワフトサイエンス」などがあります。岩松教授は、地球はかつて陸続きだったことが急速な環境の変化を経験していることから、メダカの種そのものを増殖するのではなく、メダカの生息する環境の復元の重要性について講演されました。その後、渡部かほりさんより神奈川県の「華沢メダカの学校」について、杉下正明さんからは京都府の「天江鬼の里メダカ学校」について、柴田利彦さんより「大阪自然環境保全協会」の活動報告が行われました。

平成11年8月7・8日に全国めだかシンポジウムが高知市内の会議場で開催されました。当日は台風の接近なども重なり、参加人数が伸び悩むのではないかと心配されていましたが、悪天候にもかかわらず全国から約150人の方が高知に集まりました。もとより、このシンポジウムは、社団法人高知県生体系保護協会が呼びかけを行い、「日本めだかトラス協会」設立発起人を全国で募集したところ、約

300人を超える方々の賛同が得られ、これを機会にメダカ関係者が一同に集まり意見、情報交換と「日本めだかトラス協会」設立準備会の発足を果たすために開催されたものです。

7日は、高知の「めだかトラス」の現状を見て頂くことと「めだかトラス」見学バスツアーが行われました。視察コースは高知市にある「高知めだかトラスパーク」と日高村の「日高村めだかトラスパーク」でした。当日は台風の影響で激しい雨が降る中での見学でしたが、そんな中でも全国各地から集まった人々は「めだかトラス」の活動の現地を熱心に見学していました。

速報
日本めだかトラス協会 準備会発足!!
8月8日全国めだかシンポジウムより